

【授業の到達目標および概要】

働き盛り世代のメタボリックシンドロームや生活習慣病、メンタルヘルス、禁煙対策など、近年産業保健における課題は多様化・複雑化してきている。地域保健や学校保健と同様に、人生の大部分を過ごす職域での健康管理、健康づくりは今後ますます重要となってくる。本講義では産業保健の目的・役割から、産業保健活動を行なうための施策やプロセスを学び、さらには企業の社員食堂の取り組みや、国際学会での働き盛りのヘルスプロモーションの最新情報、具体的な産業医の1日などの紹介を通じて、産業保健の面白さと意義を理解し、その中で栄養士の役割を理解することを目標とする。

【授業計画】

- ① 産業保健総論（産業保健の目的・概要）
- ② 健康管理（健康管理の義務と実際の業務）
- ③ 産業保健における健康教育とヘルスプロモーション
- ④ ヘルスリテラシー・健康経営
- ⑤ 作業環境管理
- ⑥ 作業管理と職場巡視
- ⑦ 喫煙対策（企業での禁煙教育）
- ⑧ ニーズに基づく施策（企画（Plan）・実施（Do）・評価（Check）・評価の応用と活用（Act）
- ⑨ 企業における感染症予防（インフルエンザ・新型コロナ対策）
- ⑩ メンタルヘルス（企業におけるストレスチェック）
- ⑪ メタボリックシンドローム対策
- ⑫ グループワーク・発表
- ⑬ 健診・保健指導・健康相談（健診の重要性、保健・栄養指導）
- ⑭ 筆記試験

【授業外学習】

配布したプリント・資料をよく読み、産業保健活動に関する理解を深めること。参考書の「ヘルスリテラシー」の第7章を中心に事前に読んでおくこと。（週あたり200分程度）

【成績評価の方法・基準】

授業への参加態度、グループワーク、筆記試験により評価を行う。グループワークでの発表についてコメントをフィードバックする。

【教科書】

必要な場合は提示する。随時プリント・資料を配布する。

【参考書】

ヘルスリテラシー〔健康教育の新しいキーワード〕 福田洋・江口泰正編著、大修館書店
産業保健マニュアル 第8版 産業医科大学教授 森晃爾総編集、南山堂

【教材】

随時、安全衛生ビデオなどの必要な映像を使用する。

【備考】

栄養士の活躍の場として企業・職域は大いに可能性があると考えている。多くの大学院生がこの講義を履修し、未来の仕事の選択肢を増やし、産業保健・予防医療という新しくやりがいのある分野を知り、挑戦して頂くことを期待している。さらに授業内では、実際の企業の産業保健スタッフが多く集い、多職種で議論し合う「さんぽ会（産業保健研究会）」の紹介も予定している。働き盛りの健康に興味を持つ大学院生を大いに歓迎する。